



浮羽中学校通信

自ら気づき、判断し、行動できる生徒の育成
【重点目標】～自信をもって何事にも取り組む生徒の育成～

うきは市立浮羽中学校
第 15 号

令和8年3月24日発行
文責 校長 竹並俊和

「想いが重なり、響き合った日 ～第52回卒業証書授与式を終えて～」

早春の光が降り注ぐ令和8年3月13日、本校にて「令和7年度 第52回 卒業証書授与式」を挙げていただきました。101名の卒業生が、希望を胸に学び舎を巣立っていきました。本年度の大きな特徴は、1年生から3年生まで全校生徒が揃って式に臨んだことです。在校生代表の伊藤ゆり奈さんによる送辞、そして1・2年生による合唱「ほらね」が体育館に響き渡りました。歌声を通じて伝えられた卒業生への祝福と感謝の気持ちは、会場にいたすべての人の心に深く届いたはずで、卒業生代表の石井朱莉さんは、生徒会長としての重責を担った自身の経験を振り返り、言葉を紡いでくれました。困難な時に支えとなった同級生の励まし、後輩たちの慕ってくれる声、そして常に温かく見守ってくださった先生方や保護者の皆様への感謝。その一言一言に、会場は深い感動に包まれました。その後の3年生による合唱「変わらないもの」「遙か」は、まさに圧巻でした。涙を流しながらも、想いを込めて歌い上げる姿は、私たち教職員、そして後輩たちの心に深く刻まれました。式後の学級活動では、担任や学年の教職員と別れを惜しむ、かけがえのない時間が流れていました。多くの保護者の皆様からも「感動的なひと時でした」とのお声をいただき、私自身、非常に多くの人々の想いが重なり合った素晴らしい式であったと確信しております。全校生徒が参加する形での初めての卒業式が、これほどまでに素晴らしいものとなったのは、卒業生一人ひとりがこれまで積み重ねてきた優しさや努力、そして周囲への思いやりがあったからこそです。この素晴らしい姿は、今後の本校の良き伝統として、後輩たちへと引き継がれていくことでしょう。卒業生の皆さんの前途に、幸多からんことを心より祈念いたします。



【 第52回卒業式 入場の様子 左から1組・2組・3組 代表者による卒業証書授与の様子 】

『自分から』の積み重ねが、確かな未来と平和を拓く 生徒の皆さんへ

1年間の成長を糧に

令和7年度の教育活動が、まもなく締めくくりを迎えようとしています。4月の赴任式・始業式で、私は皆さんに「出会いを大切にすること」「目標に向かって努力すること」を伝えました。一年を振り返れば、体育祭での「全力前進」する姿、文化祭で見た「Only One」のクラスの絆の結晶、そして先日の卒業式で見てくれた全校生徒の心のこもった合唱など、皆さんはまさに「自ら気づき、考え、行動する」姿勢を体現し、逞しく成長してくれました。

戦後八十年の節目に想う

さて、今年度は戦後八十年という大きな節目の年でした。1学期の終業式でもお話しましたが、私たちが享受しているこの穏やかな日常は、決して当たり前ものではありません。今この瞬間も、世界の各地ではウクライナやガザ、イランをはじめとする争いが続き、多くの尊い命や日常が失われています。遠く離れた地の出来事のように感じるかもしれませんが、平和とは先人たちの犠牲の上に築かれ、今を生きる私たち一人ひとりの手によって守り育てていくべきものです。「自分から」が平和の第一歩です。私は、皆さんがこの1年間で磨いてきた「自ら動く力」こそが、平和な社会を築く礎になると信じています。自分から気づく：誰かの悲しみや、小さな変化に気づくこと。自分から考える：「なぜ争いが起きるのか」「自分に何ができるか」を深く掘り下げて考えること。自分から行動する：互いの違いを認め合い、思いやりを持って手を差し伸べること。日々の学校生活の中で、友だちと協力し、高め合ってきた皆さんの行動一つひとつが、実は平和な未来を創る大切な一歩なのです。

新たなステージへの準備

3学期の始業式で、生徒会執行部の皆さんは「自分たちが最後にどう感じていたいか」という視点で学校の未来を語ってくれました。卒業生は義務教育の集大成として、1・2年生は次代を担う「学校の新しい顔」として、この1年間で得た「実感」をどうぞ忘れないでください。

響き合う心、次年度への躍動

3月19日の5時間目、体育館に弾む声が響き渡りました。生徒会執行部と1・2年生の中央委員が実行委員会を組織し、企画から運営までを担った「学校レク大会」が開催されたのです。「自分たちの学校を自分たちの手でつくる」という自治の精神のもと、クラス対抗のドッジボール大会が行われました。先生方も各クラスの輪に加わり、共に汗を流して親睦を深める貴重な時間となりました。試合中、学年の垣根を越えて応援し合う姿からは、令和7年度を締めくくるにふさわしい強い団結力が感じられました。この行事で育んだ一体感と主体性を糧に、生徒たちが令和8年度の新しい学校生活を力強くリードしてくれることを期待しています。



【 体育館の様子 】



【 開会式の様子 】

伝統に触れ、絆を深めた「百人一首大会」

うらかな春の光が差し込む3月23日(月)、1年生による「百人一首クラスマッチ」が柔道場にて開催されました。この日のために、生徒たちは国語の時間や昼休み、休み時間を使い、一首でも多く覚えようと熱心に準備を重ねてきました。大会当日は、19のグループに分かれ、クラスの枠を越えた真剣勝負が繰り広げられました。静まり返った場内に読み手の声が響くと、生徒たちの眼差しは一変します。白シートを囲み、膝の上に手を置いて集中する姿、そして短歌が読まれる瞬間に一斉に札へ伸ばされる手には、これまでの学習の成果が凝縮されていました。お手付きを恐れず果敢に挑む勇気や、際どい判定の際に互いに譲り合うマナーを守る姿も見られ、ルールを尊重しながら学年としての親睦を深めることができました。日本の古典文化に親しむとともに、仲間と切磋琢磨したこの経験は、2年生への進級を控えた生徒たちにとって、素晴らしい成長の糧となったことでしょう。



『地域と保護者の想いに包まれて 一卒業式に向けた環境整備』

卒業式をちょうど一週間後に控えた3月7日(土)、早朝より「PTA奉仕作業」が行われました。今回の作業には、1学年から3学年までの保護者の皆様に加え、本校を支え続けてくださっているPTAのOBの方々も大勢駆けつけてくださいました。作業の重点は、卒業生が胸を張って歩む体育館周辺の除草や、校内の樹木の剪定です。特に、これまで体育館とプールの北側を覆っていた、うっそうとした樹木。写真(※右に掲載)をご覧くださいいただければ一目瞭然ですが、皆様の手によって見事に伐採され、驚くほど明るく見通しの良い空間へと生まれ変わりました。

これまで影になっていた場所に光が差し込む様子は、まさに卒業生の明るい未来を象徴しているかのようです。貴重な休日、しかも早朝という時間帯にもかかわらず、これほど多くの方々にご協力いただいたことに心より感謝申し上げます。

作業にあられた皆様の姿からは、「卒業生を気持ちよく送り出してあげたい」という、温かな親心と期待の気持ちがひしひしと伝わってまいりました。こうした地域の皆様、保護者の皆様の支えがあってこそ、本校の教育活動が成り立っているのだと改めて実感する一日となりました。整えられたこの学び舎から、生徒たちは旅立ちました。皆様からいただいた温かなエールを胸に、素晴らしい式典となりました。



【 作業前 before 】

【 作業後 after 】

保護者の皆様並びに地域の皆様へ

保護者や地域の皆様、1年間にわたる本校の教育活動への温かいご理解とご協力、そして先日の奉仕作業をはじめとする多大なるご支援に、心より感謝申し上げます。

生徒たちが、自らの力で素晴らしい未来を、そして平和な世界を掴み取っていくことを期待し、年度末の挨拶いたします。